

特定非営利活動法人 Leaf

第 1 期（平成 24 年度）事業報告書（平成 24 年 3 月 6 日～平成 24 年 12 月 31 日）

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の 範囲及び人数	支出額 (千円)
放射能汚染による実及び風評被害で販売に苦しむ農産物、 農産物加工品の販売支援事業	①福島農食復興支援プロジェクト企画開始	平成 24 年 3 月 6 日から開始	(株)GNS	4 名	職員、バイヤー、小売店、延べ 30 名前後 消費者延べ 2000 名	300
	②芝浦オーガニックマーケット出展販売支援活動	平成 24 年 6 月 15, 16 日	芝浦ハウス	2 名	職員、利用者約 100 名	0
	③癒しフェア 2012in 東京飲食ブース「SEMINA Cafe」出展支援販売	平成 24 年 8 月 4, 5 日	東京ビックサイト	5 名、ボランティア 4 名	職員、利用者約 200 名 来場者 3 万人	200
	④東京青山ファーマーズマーケット in 国連大学前に出展販売支援活動	平成 24 年 6 月 17 日	国連大学前	2 名、ボランティア 1 名	職員、利用者約 50 名	0
	⑤福島県最大の食祭典 in ごちそうふくしま満喫フェア 2012 出展支援販売	平成 24 年 9 月 8, 9 日	郡山ビックパレット	2 名、ボランティア 3 名	職員、利用者約 100 名 来場者 5 万人	100
事業の成果						
①当法人の国の暫定基準よりはるかに厳しい基準（世界で一番厳しいとされるウクライナ基準）にて安全を確認した(株)GNS社（福島二本松）「たなつものブランド福島復興支援商品」の販売支援協力を開始した。小売店へ説明営業に回り、ご理解のある小売店様へ販売協力を仰いだ。今後「福						

島産「福島加工産」の食品において、消費者・問屋・バイヤー離れの傾向が進むと推測される中、いかに理解あるバイヤー・仲介業者と連携が不可欠と判断しているが、大きな一歩を踏み出すことが出来た。

②「みて、きいて、学んで、買える」をテーマにオーガニックオーガニックライフの本当の楽しさを伝える交流イベントに参加。世界や国内各地のオーガニック野菜や米、雑穀、化粧品など展示販売し、同じく当法人が安全確認された商品も展示し交流が図れた。

③日本伝統食とマクロビオティックを融合させ進化させたメニューを提供する店舗として新ブランド「セミナ」を中美恵氏、柴田真希氏らのご賛同の下、福島での「農」「食」の情報発信型カフェ&ショップを企画。お米や野菜など当団体で安全を確認した福島産食材を使用して、中美恵氏、柴田真希氏他多くの手伝いのスタッフが来て下さり600食販売と大盛況に終わった。

④首都圏各地で開催されているファーマーズマーケット。農家と私たちの間の対話を生み出し、健康的な食べ物とその源に対する理解を促進するイベントに参加し、消費者との交流と福島の農産物アピールを図れた。

⑤福島県内最大の食の祭典。福島の豊かな農林水産物の「食の力」を県内をはじめ全国、世界へと発信し、東日本大震災と原子力災害の復興を図るイベントに参加し、8月の東京ビックサイト癒しフェアに続き、第2弾 SEMINA Cafe 出展としまして福島食材を使用した「ベジジャンバラヤ」「オーガニックポテトフライ」「大豆ミート唐揚げ」「オーガニックコーラ」などを調理販売し大盛況に終えることが出来た。

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
安全な農産物の育成方法ならびに販売支援に繋がる放射線量検査事業	①放射能測定器導入設置および検査業務開始 品名:ガンマ線スペクトロメータ NaI(Tl)シンチレ ータ/メーカー:EMFジャパン株式会社(日本製)	平成24年9月1日か ら	事務所内 検査室	2名	生産者・食品業者 延べ使用者約500名	200
	②文部科学省認可国家資格第3種放射線取扱主 任者講習参加	平成24年11月6,7日	東京富山 会館ビル	1名	参加人数30名	100
事業の成果						
<p>①福島県の農産物・加工食品に関しましては、放射能分析がまず加工流通するための科学的数値の提示ということで必要不可欠になっている状況であり、当社で導入設置することにより、活動事業と周囲農家・加工業者へ低コストでの分析業務を開始。平成24年4月1日厚生労働省通知「食品中の放射性セシウムスクリーニング法」に準拠した測定方法にて農産物、食品、土壌、水質など様々な検体について、ご希望の皆様に対しまして開始することが出来た。</p> <p>②法令では放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律で規制され放射性同位元素を取り扱う業者には、免許及び国への使用届出が必要であると定められています。今回の分析器導入に際しては免許及び届出は必要はないが、放射線測定業務を行なっていくのにあたり基本的な法令である放射線障害防止法に基づいた正しい知識や安全管理など最低限の知識を習得するために取得した経緯であり、情報の共有を図れた。</p>						

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の 範囲及び人数	支出額 (千円)
安全な農産物及び農産物加工品であることの広告活動	①福島農食復興支援プロジェクト企画開始 WEB分析情報公開システム	平成24年3月6日から	WEBサイト	4名	問屋と小売店舗、延べ30名前後	100
	②TOHOKU FOOD EXPO 2012in 東京。岩手・宮城・福島被災3県の食材展示に広告出展	平成24年6月15,16日	東京ビックサイト	2名	来場者1万人	0
	③第2回ふくしま会議参加。ふくしまの未来をつくため、多くの出会いと福島の声。	平成24年11月15,16日	福島大学	1名、ボランティア5名	参加者延べ500名	0
	④Nuclear Free Now! 「できる!つくろう 原発のない世界」国産イベントに参加	平成24年12月15,16日	日比谷公園	1名	参加者5,500名	0
	⑤県外農業委員会から活動視察来訪会 山梨県南部町、宮城県色麻町農業委員会来社	平成24年11月15日 平成24年11月21日	事務所 畑産地	2名	来訪者60名前後	0
事業の成果						
<p>①当法人の国の暫定基準よりはるかに厳しい基準（世界で一番厳しいとされるウクライナ基準）にて安全を確認した商品へQRコードを入れたラベルを貼付け、消費者自身で、その商品の分析値を始め、測定方法・生産者・栽培規格などが確認出来るシステムを構築することが出来た。</p> <p>②地方と都市部、地方と世界を繋ぎ、多くの商談を生み出す機会として参加。出展社180社が集まり、地方の食材サプライヤーのみなさまと、国内外の食品担当バイヤーのみなさまとの出会いの場を提供させていただきました。福島の美味しさと安全性をアピールすることが出来た。</p> <p>③3.11以降の福島の経験や現実を世界と共有し、新しい福島を創るために語るふくしま会議へ初参加した。今の福島を見詰め、未来のふくしまはどうなるのか？様々な分野の方や若者たちの充実した意見交換が飛び交い熱い会議の場となり現実を踏まえ自分たちにできること、やらなくてはならないこと、やるべきこと、いろいろと精査しながら当法人も前へ歩んで行きたいと再決意をした良き会議であった。</p>						

④東京・日比谷での一連の行事に2012年12月15～16日の2日間で9カ国25人からの海外ゲストを含む、のべ5500人以上の参加があり、当法人もワークショップテナントとゲストパネラーにてイベントに参加。昨年東京電力福島第一原発の事故で、私たちは原子力が制御不能であることを身をもって学び以後、多くの人々が「原発のない世界」を求める声を上げ、その結果、政府は新エネルギー戦略で「原発ゼロ」をめざす方針を再認識する良きイベントであった。

⑤この放射能汚染問題は、ここ福島だけの問題ではなく、東北地域はもちろんだが、日本全国での問題であるということ。今後の日本国内農産物の未来へ向けて、ここ福島から情報発信して行くことで、逆に福島から何かできることもあるのだと思った会合であった。

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の 範囲及び人数	支出額 (千円)
汚染された土壌及び環境に対して 浄化して行くための啓発活動	①JAEA 日本原子力研究開発機構主体にて「キノコ菌床を用いた森林除染産業の創出プログラム」に参画申請	平成 24 年 7 月～	ゆうきの里東和	5 名	JAEA、GNS社、ゆうきの里東和延べ 10 名	0
事業の成果						
<p>①キノコは比較的多くのセシウム 134.137 を吸収しているデータから最適(より吸水するもの)なキノコ菌床を作り上げ、それを森林(落ち葉など)に散布し 3 年間かけて実施・データ蓄積し茨城大学と福島大学と組んで研究して行く流れです。国・県の対応は、右から左に流すだけの高圧洗浄作業や吸収効果は期待できるが、除去できないゼオライト対策です。しかしながら洗浄した汚水は河川へ、そして海洋へ。ゼオライトは散布しても、それを除去することができません。このプロジェクトは、菌床をばら蒔き、吸着した菌床を除去することが期待できる資材になるかも知れない復興促進プログラムです。</p>						

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の 範囲及び人数	支出額 (千円)
除染作物 方法の提案と技術提供活動 における有効的な活用	①SVO(ストレートベジタブルオイル)技術の支援活動	平成24年10月20日	ゆうきの里東和	2名	製造人延べ5名	0
	②大豆搾油技術の支援活動	平成24年11月26日から	㈱GNS	2名	製造人延べ3名	0
事業の成果						
<p>①除染作物で作付けされた菜種やヒマワリの種子をオイルにするSVO(ストレートベジタブルオイル)システムの支援。食用としてではない用途オイルでの技術提供を行ない有効活用に貢献することが出来た。</p> <p>②ストレートベジタブルオイルの技術支援に続き、風評にあっている大豆農家・生産の復興支援活動としまして国産大豆油の技術提供を行なった。風評という壁に苦しみ、販路が断たれている大豆と生産者が見受けられていることから、当法人にて測定を実施し安全が確認された大豆油の商品化に貢献出来た。</p>						